

「あかしSDGs後期戦略計画（案）」への意見募集結果

1 意見募集の概要

- (1) 実施期間 2026年1月5日（月）から2月4日（水）まで
- (2) 提出された意見の件数 7名の方から33件のご意見をいただきました。
- (3) 提出いただいたご意見

NO	意見の概要	市の考え方
1	・住みやすいと思う人の割合が当初値、目標値より低い主な理由を教えてください。(P2)	・前期戦略計画の効果検証に当たって実施したまちづくり市民意識調査では、前期戦略計画におけるまちづくりの数値目標である「住みやすいと思う人の割合」が91.0%であり、目標値である95.0%には達しませんでした。
2	・住みやすいと思わなかった人10%の理由は理解されていますか？何が出来れば100%を達成できると市は考えていますか。(P18)	・この結果については、多くの市民の方から本市のまちづくりに対して一定評価いただけていると理解する一方で、住みやすいとご回答いただけなかった方々も一定数おられることから、同調査にて回答いただいた、「今後、推進すべき分野」等の意見なども踏まえて、まちづくりを推進する必要があります。 ・そこで、後期戦略計画（案）では、まちづくりの重点事項を「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで、暮らしに安心を生み出す」とし、各施策をきめ細やかに推進することで、SDGs未来安心都市・明石の実現を目指すこととしています。
3	・温室効果ガス排出量の効果検証において、実績値では2021年が15.0%の減であり、2025年の30%の減が達成できるのか。(P5)	・温室効果ガス排出量のKPIは、「明石市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、2050年までにカーボンニュートラルを実現するため、バックキャストの考え方で、2030年度の温室効果ガス排出量の削減目標を設定しています。 ・目標の達成に向けては、市民、事業者、関係団体と連携し、ゼロ・カーボンあかしの取組を計画的に推進していくことを後期戦略計画（案）に記載しています。
4	・前期戦略計画の効果検証として、以下の点を考慮して効果検証すべきでないか。(P5) ・オレンジサポーター養成者数について、養成	・前期・後期戦略計画では、各施策の推進状況を客観的に把握するため、施策展開の方向に一項目ずつ、重要業績評価指標（KPI）を

	<p>講座を修了した者のうち、実稼働されている人数も必要では。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂の実施回数について、回数だけでなく、参加者数(延べ人数と実人数)も評価すべきでは。 ・図書館等での本の貸出冊数は、1図書館辺りの平均冊数も評価すべき(図書館が増えれば自然増はあるので)。あるいは図書館利用者数(延べ・実数)があるとより評価しやすい。 	<p>設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期戦略計画のK P Iについては、施策展開の方向との整合性や関連性、達成の困難度、毎年の数値取得の可能性などの点に加えて、前期戦略計画との継続性を考慮し、K P Iを設定しています。 ・前期戦略計画の効果検証に当たっては、あかしSDG s 推進審議会でご審議いただき、定量的な評価指標であるK P Iの達成状況だけでなく、具体的な各施策の取組状況などもお示しした上で、全体の評価をいただいています。 ・なお、後期戦略計画(案)には、市民の方に前期戦略計画の推進状況を分かりやすくお示しするため、K P Iの達成状況を○△×で表現しています。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「①住みやすいと思う人の割合 100%」を「①住みやすいと思う人の割合 95%」に訂正する(P14)。 ・前期戦略は、目標値を達成していないだけでなく、当初値を下回っているのに、目標値を100%に引き上げる根拠がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期戦略計画におけるまちづくりの数値目標は、あかしSDG s 推進計画(明石市第6次長期総合計画)に掲げられた数値目標と同じです。 ・SDG s の理念である誰一人取り残さないとの考え方のもと、すべての人に住みやすいと思っただけのまちを目指して、まちづくりを推進します。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民一人ひとりに寄り添いながら、よりきめ細やかに施策を展開する」とあるが、一人ひとりによって、環境や心配事が異なる中で、全ての人に寄り添うことは不可能に近い。具体的にどのような方法・仕組みで、寄り添いきめ細やかな施策を可能とするのか。(P15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期戦略計画(案)では、新たに「後期戦略計画の重点事項(まちづくり戦略)」として、「対話と共創によるもっとやさしいまちづくりで暮らしに安心を生み出す」としています。 ・複雑、多様化する市民ニーズに対して、様々な場面で市民との対話を通じて、課題の本質を見極めるとともに、産官学民の多様な主体と共創によるまちづくりを推進することで、もっとやさしいまちづくりをきめ細やかに展開していきます。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・国は、第1回人口戦略本部を立ち上げ、人口減少対策を総合的に推進するとしています。 ・明石市は人口増加が続いていますが、今後、人口減少を迎えることから、現段階から将来 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期戦略計画(案)では、新たに「後期戦略計画における重点事項(まちづくり戦略)」を定め、人口減少対策についても重点事項の一つとして位置付けています。

	<p>を見据えて人口減対策と人口が減少しても安心して暮らすことができる明石にしてほしい。(P15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、目標人口 30 万人の維持に向けて、経済面、社会面、環境面から多角的に取組を進めていくとともに、人口減少社会を迎えたとしても、安心して暮らすことができるまちづくりにも取り組みます。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・あかし共創プラットフォームについて、イベントに参加したが、どのような企画に対し、誰が主催し/主催することができ、それに対して、誰がどのように進めていくのか。(P16) ・その場合かかる費用などは誰が負担するのか。どのようなタイムラインで実施されるのか。プラットフォームとは何を指し示すことなのか、イメージ先行で進められているように感じる。今後、決めていくのであればタイムライン・組織・プロセスなどもっと明確にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共創プラットフォームは、市民の皆さんと一緒につくり上げていくことを基本としていることから、現時点では、個別の企画内容、実施体制等について、あらかじめ確定した計画を定めているものではありません。 ・一方で、運営方針としては、「つながり」と「テーマ」を軸に、「知りあう」「語りあう」「創りだす」という3つの機能を果たすため、年間を通じて、共創カフェ（出会いと学びの入口）、共創ミーティング（課題やプラットフォームの方向性の共有）、大交流会（多様な交流や成果の共有）等の場を継続的に開催する予定です。このような場を通じて、共創の取組が生まれ、具体的な取組に発展していくことを目指しています。また、これらの場の開催頻度や位置付けについては、固定的なスケジュールや内容とするものではなく、状況に応じて柔軟に運営していく考えです。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・柱である「豊かな自然と共生し、暮らしの質を高める」と「まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す」の記載を入れ替える。(P17、P18) ・まちづくりの方向性には、経済、社会、環境の順に記載されているが、施策展開の柱は、環境、社会、経済の順に記載されており、分かりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、社会・経済を支えるための土台である環境面の柱を記載した上で、次に、市民生活を支える社会面の柱と地域経済活動を支える経済面の柱を記載しています。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的・効果的な行政運営の「①市民と共にまちを創る」を「①市民と共にまちをつくる」に訂正する。(P18) ・「まちづくり」には、「創る」という意味だけでなく、「造る」、「整備」、「保全」、「改善」など、多くの手法がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「創る」という漢字には、新しい物を生み出すという意味があり、複雑、多様化する市民ニーズに寄り添い、課題解決やより良い施策展開を図っていくため、市民との対話や産官学民の多様な主体との共創を通じて、新たな価値を創造していくことが重要であり、こうした観点から、「創る」という表現を用いて

		います。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・展開の方向2の「市民や事業者との共創のもとで推進し、」を「協働により推進し」に訂正する。(P20) ・自治基本条例には、「参画と協働のまちづくり」が定められているが、「共創」は条例上、定めがないため、共創は、協働の代替にはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「共創」は「協働」を前提として、さらに新たな価値を生み出すという取組です。 ・循環型社会の実現に向けて、市民や事業者と協働して取組を推進するだけでなく、新たな技術開発やコミュニティの形成など、取組を通じて、新たな価値を創造するという観点から「共創」という表現を用いています。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境に影響を与えるプラスチックゴミの削減は、飲料用のペットボトルをさしていますか。(P20) ・過剰包装やプラスチック製の容器を使用しているスーパーや惣菜屋、生産している企業(川上)への働きかけはありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックごみの削減については、飲料用ペットボトルをはじめ、食品トレイや袋などの容器包装プラスチック、プラスチック製品など幅広い廃棄物が対象となります。 ・後期戦略計画(案)では「循環型社会の実現」を施策展開の方向の一つとして位置づけ、資源循環等の取組を推進することとしています。 ・具体的には、スーパーなどの事業者と連携し、レジ袋の削減や簡易包装、トレイなどの店頭回収活動を推進する取組を行っているほか、ペットボトルの水平リサイクル(ボトルtoボトル)、小型家電やハブラシ、インクカートリッジの回収などプラスチックの再資源化にかかる多角的な取組を行っています。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・主な施策の「市民との共創(公園愛護会等)による公園施設等の管理」を「市民(公園愛護会等)との協働による公園施設等の管理」に改める。(P20) ・カッコ書きの位置が間違っている。 ・公園管理について、協働はできるが、共創はできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公園愛護会等」は市民の例示であるため、「市民(公園愛護会等)」に修正します。 ・公園施設等の管理について、維持管理だけでなく、公園が地域の方々の交流拠点となるよう取組を推進していく観点から、「共創」という表現を用いています。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の理不尽ないじめなどにも、取り組んで欲しいです。(P23) ・過去に地域活動の場で悩みました。相談したときに、然るべき立場の人に寄り添って欲しかった。今もしんどい人がいたら助けてあげて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期戦略計画(案)では、「柱2 笑顔あふれる共生社会(インクルーシブ社会)をつくる」「展開の方向2 自分らしく生きることができる社会づくり」において、年齢や性別、国籍、障害の有無に関わらず、お互いに共感して人格と個性を尊重し、多様性を認め合い、支え合うインクルーシブ社会の実現を目指して、取組を推進することとしています。 ・いじめは許されない行為であり、人権侵害で

		あるため、基本的人権が尊重されるまちづくりを目指して、関係機関とも連携し、人権意識の醸成と問題の解決に取り組みます。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・主な施策の「自殺未遂者の早期支援」を「自殺リスク者への早期の気づきと支援」に訂正する。(P24) ・自殺未遂が生じた時点で、早期の気づきや支援がなかったことを意味するのではないか。また、自殺未遂者への配慮も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明石市自殺対策計画では、ハイリスク者への支援強化として、自殺未遂者への早期支援を掲げていますが、より広く支援対象を示すため、自殺未遂者も含めた「自殺の危険性の高い人への早期支援」に修正します。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・国際セクシャリティ教育ガイダンスによると、性教育のスタート年齢として推奨されるのは5歳とされており、就学前に伝えると以後の言動に大きく影響します。また、共存ルールを踏まえていることから、SDGsの項目にも良い影響をもたらせます。(P27) ・性教育は、人と人が安心して共存するための知識を伝える内容となっているので、就学前からの性教育の実施をお願いしたい。 ・そのため、計画上に「幼少期からの性教育を実施する」と加えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所や幼稚園などの就学前施設では、国が定める「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」等に基づき、「性」という言葉を直接的に教えるのではなく、「自分や他者を大切にすること」や「体の仕組みへの関心」を育むなど、日々の保育・教育の中で「性教育」の根幹となる取組を行っています。いただいたご意見を参考に今後も継続して取り組んでいきます。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策として、防犯カメラの設置で、子どもも先生も守られるのではないのでしょうか。(P27) 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策について、現在、明石市いじめ防止基本方針の策定を進めており、多角的なアプローチからいじめを防止し、小さなSOSを見逃さず、早期の段階で適切な対応を可能とする体制整備に取り組んでいます。 ・また、後期戦略計画(案)では、「柱3 こども・若者の育ちをまちのみんなで支える」「展開の方向2 インクルーシブで質の高い教育の推進」の主な施策に、「いじめ対策の推進」を位置付けています。 ・ご提案の防犯カメラの設置は、学校内外における安全の確保や抑止効果の観点から、一定の有効性があると認識しますが、一方で、いじめは人間関係や心理的要因が複雑に絡み合っているものであることから、防犯カメラの設置のみでは根本的な解決を図ることは難しく、また、プライバシーへの配慮や設置場所・運用方法については慎重な検討が必

		要と考えます。
18	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の地域展開について記載がありませんが、スポーツ、芸術両方の面での方針と支援が必要と考えます。(P27) 地域展開の期日が迫っていますが、計画・実施・移行はSDGs後期戦略計画内で実施される大きなプロジェクトと考えますので、項目として追加してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校部活動の地域展開については、後期戦略計画(案)の「柱3 こども・若者の育ちをまちのみんなで支える」「展開の方向2 インクルーシブで質の高い教育の推進」の主な施策に、「明石らしい中学校部活動の地域展開」を位置付けています。 ご提案のとおり、部活動の地域展開に向けて、スポーツ、芸術の両面での取組を展開し、「子ども・地域・教員」にとって三方良しとなるよう、新しい部活動のカタチ「あかしタイム」の取組を推進します。
19	<ul style="list-style-type: none"> 明石SAへのスマートインターチェンジ整備の検討は中止が良いと思います。里山や梅林がなくなるのは、もったいない。それより、持続可能な上下水道の構築など、優先して欲しいです。(P32) 	<ul style="list-style-type: none"> 後期戦略計画(案)では、「柱4 安全・安心を支える生活基盤を強化する」「展開の方向3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備」を位置づけ、市民の暮らしや経済活動を支える、持続可能で安全・安心な生活基盤を整えることとしています。当該道路は、これらの観点からも検討を進めているところです。 いただいたご意見につきましては、担当課に共有させていただきます。
20	<ul style="list-style-type: none"> 市民の反対が圧倒的な中、検討を進める理由を教えてください。市の説明の「利便性」と「経済性」も具体的に明示されていません。 以下の内容を明示してください。①令和4年実施のスマートIC設置基礎調査の費用。②今回調査の期間(契約に期間は明示されていません)と費用。そもそも調査を重ねること自体が市税の無駄遣いなのですが市の見解は。調査結果にもとづく市民への説明会の時期。(P32) 	
21	<ul style="list-style-type: none"> 明石唯一の大自然(秘境)が残る周辺地域は「人づくり」情報発信基地として整備検討する。(P32) 町の継続的な発展・豊さ(幸せ実感)の創出は「インフラへの投資」から「人を機軸とした投資」へ 	
22	<ul style="list-style-type: none"> 安全で強靱な都市基盤であれば、スマートインターチェンジの設置など新しいものを導入する前に、狭く危険な道路の整備を優先してほしい。(P32) 	<ul style="list-style-type: none"> 狭あい道路については、後期戦略計画(案)の「柱4 安全・安心を支える生活基盤を強化する」「展開の方向3 誰もが利用しやすく安全で強靱な都市基盤の整備」の主な施策に、「安全で快適な市街地環境の整備、狭あい道路の拡幅」を位置付けています。

		<ul style="list-style-type: none"> ご提案のとおり、幅員4メートル未満の狭い道路を解消し、良好な住環境の確保と都市機能の向上を図るため、「狭あい道路整備事業」を実施していきます。
23	<ul style="list-style-type: none"> 旧図書館跡地の新しいプランを、見せてもらったが、立派すぎてびっくりした。駅からも遠いし、明石には会議室もホールもすでにあるのに、あの場所に必要なのか疑問です。(P35) 	<ul style="list-style-type: none"> 後期戦略本計画（案）では、「柱5 まちの魅力を高め、活力と交流を生み出す」「展開の方向2 豊かな心を育む文化・芸術の推進」を位置づけており、文化・芸術の推進やまちの魅力を生み出す地域拠点の整備に取り組むこととしています。当該施設は、これらの観点からも必要な施設として整備を進めているところです。 いただいたご意見につきましては、担当課に共有させていただきます。
24	<ul style="list-style-type: none"> 旧市立図書館跡地の利活用については、決定、検討プロセスが不明確なので、市が掲げている対話と共創に基づいていると思えない。箱物への投資は本当に必要とされているものに限定し、人への投資にシフトして欲しい。(P35) もし補強工事をして活用するという案が通らず、市民合意の上で建て替えを行うという事に決定した場合、神戸マラソンへの協力の一環として、旧市立図書館跡地にランニングステーションとしても活用できる機能(ロッカー、シャワールーム、サプリメント販売など)を加え、明石公園をランニングスポット、ランニングの基点にしてはどうか。 また、サイクリングロードでもランニングイベント(湘南マラソンのような)が開催できると考える。 	
25	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流センターの利用予想を示してほしい。費用対効果で見た場合16.6億円+ランニング費用は十分ペイする見通しが立っているのか。(P35) 都市構造再編集中事業のひとつであった歩行者デッキ(2階)が中止となり計画は見直しとなっている。市は3月議会で新年度予算として旧市立図書館の解体を申請する予定。非常に拙速感が否めない。 明石駅周辺にはアワーズホール、ウィズ明石子午線ホール、勤労福祉会館、中崎公会堂、子ども広場多目的ルームがある。市内にも西部市民会館、大久保保健センターがあり新施 	

	<p>設としての西明石地域交流センターも予定されている。この上、新施設の建設は市が推進する公共施設最適化計画にも全く反する。利便性の著しく悪い地域交流センター計画を強引に押し進める狙いと意義を回答ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新施設は市民のための「未来志向の施設」との説明がありました。具体的にどのようなものでしょうか。また市内に多数あるホールの改修などで実現できないものなのでしょうか。 	
26	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館等での本の貸出冊数は、図書館が増える事により自然増となるので、同時に1図書館平均貸出数及び借りている人の延べ人数、実数もKPIに取り込む必要がある。(P36) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期戦略計画では、各施策の推進状況を客観的に把握するため、施策展開の方向に一項目ずつ、重要業績評価指標（KPI）を設定しています。 ・後期戦略計画のKPIについては、施策展開の方向との整合性や関連性、達成の困難度、毎年の数値取得の可能性などの点に加えて、前期戦略計画との継続性を考慮し、KPIを設定しています。 ・柱5-2「豊かな心を育む文化・芸術の推進」のKPIについては、本のまちづくりの推進に係る長期的な取組成果を測るため、前期戦略計画と同じ「図書館等での本の貸出冊数」をKPIとして設定しています。
27	<ul style="list-style-type: none"> ・対話から課題やニーズを知り、解決方法を見出すPDCAプロセスを明確にして欲しい。今の状況ではタウンミーティングやワークショップなど対話の場は作った、案内をした、定員割れであってもその場で得た情報のみで物事が決定、実行されているように見受けられる。(P38) ・オンライン参加や、市民がいつでも相談、問題提起しやすい仕組みづくりを行なって欲しい。 ・特に本当に困っている人・時間のない人・経済的・心理的余裕のない人はタウンミーティングやワークショップに参加する余裕がないので、そういう本当に困っている人たち 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では「対話と共創のまちづくり」を重点的に推進しており、これまでタウンミーティングやワークショップなどを通じて、多くの市民の皆様と対話を重ねることで、様々なニーズや地域課題が明らかになるとともに、いただいたご意見をはじめ、社会情勢や市の取組の方向性などを踏まえ、順次、課題解決に向けて取り組んできたところです。 ・後期戦略計画（案）においても、対話と共創のまちづくりを後期戦略計画における重点事項（まちづくり戦略）として位置づけ、より一層推進していきます。 ・また、「対話の場に参加できない方への環境づくり」は、大きな課題と認識しています。

	<p>の課題や心配を知ることができ、対応できるよう細やかな対話の場を作ってほしい。</p>	<p>他の手法も踏まえ、より多様な多くの市民に参画いただけるよう、今後も取り組んでいきます。</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> 初めてタウンミーティングに出る予定です。気軽に参加していいと知り合いに教えてもらったので、どんなお話あるのか楽しみです。市民参加型の、意見交流の機会があるのは、素晴らしいと思います。(P38) 	
29	<ul style="list-style-type: none"> 市民ファシリテーターについて、養成講座基礎編だけでは不十分なので、有料であってもadvanced編など更なるスキルアップの機会が必要。(P38) ファシリテーターに限らず、様々な講座を開催されているが、受講後、どのように市内で貢献して欲しいのか明確にして欲しい。受講修了者が出た事だけで満足されているように見える。 職員に加え、市議会議員も受講してほしい。 また、将来的に財政難に陥る可能性もあるので、大人向けの講座については少額であっても有料にし、経費削減していただき、他の必要な支援にまわしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターの養成については、後期戦略計画(案)の「6 計画の推進」「①市民とともにまちを創る」の主な施策に「市民ファシリテーターの養成、職員向けファシリテーション研修の開催」を位置づけています。 この市民向けファシリテーターの養成講座は、市全体に対話の輪を広げることを目的に2024年度から実施しており、「聴く」「書く」といったファシリテーションの基礎を学ぶ「基本編」だけでなく、場づくり・合意形成に至るまでの実践演習を学ぶ「応用編」も設けています。また、受講後の学びの場として「あかし市民ファシリテータークラブ」が生まれ、活動が継続しているところです。 今後も積極的に実践の場を提供するとともに、様々な対話の場への参加、運営を促すことで、市全体に対話の輪が広がるよう、取り組んでいきます。
30	<ul style="list-style-type: none"> 自治基本条例には、市政運営の基本原則として、参画と協働に基づくことや公正で透明であることが規定されているが、計画には記載がない。(P38) そこで、「6 計画の推進」の項目に「市政運営の基本原則」という項を新設し、「市政への市民参画」、「情報の共有」、「公正な市政運営」、「情報の提供」、「説明責任の履行」に関する内容を記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「6 計画の推進」については、上位計画であるあかしSDGs推進計画の行政運営の基本姿勢に基づき、計画を推進するための取組を記載したものです。 自治基本条例で定める市政運営の基本原則を順守することは当然であり、あえて、市政運営の基本原則という項目を新設する必要はないと考えます。
31	<ul style="list-style-type: none"> 大人むけの市民講座は500円とか1000円の少額でも有料とし、その分フリースペースをもっと増やし(アスピアのフリースペースや会議室を1フロア増やす。各市民会館や公民館にもフリースペースを設けるなど)居場所 	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体が提供するサービスのうち、特定のサービスを受ける者には、受益の範囲内で、使用料又は手数料等を負担いただくこととなっています(受益者負担の原則)。 現在、ご提案のように参加者に対し個別に必

	<p>作りにも活用してもらいたい。また高齢者や子供、障害者への支援に使うことも含め組織の壁を越えて柔軟に財源の使い方を検討していただきたい。(P39)</p>	<p>要となる経費を負担していただくことが適当と考えられるものは、実費徴収金や参加料等を費用として徴収しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、後期戦略計画（案）では、「6 計画の推進」「②持続可能で自立した行政経営を推進する」の主な施策に、「健全財政の推進」を位置づけており、受益者負担の適正化をはじめとする財源の確保や、真に必要な施策への選択と集中による予算配分を行うことを記載しています。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I であるあかし共創プラットフォーム参加者数の参画とは何を示していますか。(P40) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あかし共創プラットフォームの参画とは、プラットフォームの趣旨に賛同し、共創プラットフォームを通じた場に参加していることを指しています。 ・必ずしも継続的・恒常的な参加のみを意味するものではなく、テーマや関心に応じて、段階的・柔軟に関わることも含めた広義での参画を想定しています。
33	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の推進として、PDCA のそれぞれのフェイズにおける市民への情報共有はどのようにされますか。(P41) 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期戦略計画の策定に当たっては、多様な市民が参画するあかしSDGs推進審議会で審議し、計画案の取りまとめを行ってきました。また、素案づくりの段階では、タウンミーティングやワークショップを開催したほか、常設の意見聴取フォームを整備し、多くの市民参画のもとで計画を策定しています。 ・また、計画の進捗管理についても、引き続き、あかしSDGs推進審議会を毎年度、開催することで、各施策の進捗状況に対するご意見を頂戴して、まちづくりに反映していきます。 ・また、これらの手続きは、全て公開することで、市民との情報共有にも取り組みます。

※ その他、本計画（案）以外の意見については、担当所管課へお伝えしています。